

経済学部  
2019 年度  
第 3 回入ゼミ説明会

2019 年 1 月 12 日(土)

慶應義塾大学

経済学部ゼミナール委員会



# 2019 年度 経済学部 第 3 回入ゼミ説明会

2019 年 1 月 12 日(土)

慶應義塾大学経済学部ゼミナール委員会

## —目次—

入ゼミに関する今後の流れ. . . . .	p.1
A 日程登録・試験に関して. . . . .	p.2-5
B 日程登録・試験に関して. . . . .	p.5-7
新規ゼミ・募集再開ゼミの紹介. . . . .	p.8-18
経済学部ゼミナール委員会について. . .	p.19-20
ゼミ説明会 会場全体図. . . . .	p.21-23

## 入ゼミに関する今後の大まかな流れ

1月中旬～下旬	keio.jp を通じて WEB 出願用の URL が送られます。
2月4日(月) 10:00 ～2月6日(水) 15:00	<b>A 日程登録期間</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・経済学部の研究会を志望する場合は、この期間に WEB 出願を完了させてください。</li><li>・詳細は p.2～4 に掲載している詳細をご参照ください。</li></ul>
3月12日(火)	<b>A 日程試験日</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・原則として、全てのゼミがこの日に試験や面接を行いません。当日中に合格発表も行いません。</li><li>・詳細は P.5 に掲載しています。</li></ul>
3月13日(水) 10:00 ～3月14日(木) 15:00	<b>B 日程登録期間</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・A 日程を終えた段階で追加の募集を行なう研究会について、志望する学生はこの期間に WEB 出願を完了させてください。</li><li>・A 日程でいずれかの研究会の入会が認められている学生は出願ができません。</li><li>・詳細は p.5～6 に掲載しています。</li></ul>
3月25日(月) ～3月27日(水)	<b>B 日程試験期間</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・A 日程と同様、原則として全てのゼミがこの期間に試験や面接を行いません。当日中に合格発表も行いません。</li><li>・詳細は p.7 に掲載しています。</li></ul>
その後	<b>C 日程募集</b>
4月	入会が認められた場合、4月に必ず履修申告をしてください。

## A 日程ゼミ試験志望登録方法に関して

### ①事前登録をする。(経済学部以外の2年生)

1月12日(土)に開催される第三回入ゼミ説明会までに経済学部ゼミナール委員会にて登録してください。登録完了している方には1月15日(火)、keio.jp上にメッセージを送付します。もし届かなかった場合は、仮登録用のURLが届きませんので、経済学部ゼミナール委員会入ゼミ担当までご連絡ください。

### ② URL を取得する。

1月18日(金)、学内サイト keio.jpにてお知らせとしてURLを通知します。経済学部2年生全員と事前登録している他学部2年生に送付します。

### ③情報を入力する。[2/4(月)10:00~2/6(水)15:00]

- 1) keio.jpにて配布されたURLにアクセスすると右図のようなログイン画面が出てくるので、メールアドレスを入力します。学内アドレスでしかログインできない設定になっています。



- 2) 右下図のようなフォームが開けるので、それぞれの項目を入力します。

【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【A日程志望ゼミ】は記入必須となっています。

- \*学籍番号は数字8桁以外の場合エラー表示になります。
- \*重複防止のため、一人一度のみしかフォーム送信はできないようにしています。
- \*送信した時点でログインしたメールアドレスは自動で記録されます。

3) フォーム送信直後に、右図のような仮登録完了を知らせるメールがログインしたアドレスに届きます。

- \* 右図のメールが証紙となります。  
タイムスタンプが **Wed Feb 06 2019 15:00:00** 以前のもののみが有効です。
- \* メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。
- \* 変更届のフォーム URL は登録完了メールに記載されています。



④経ゼミが倍率を発表する。[2/6(水)17:00]

HP 及び Twitter にて倍率を発表します。

\* トラブル対応のため、2月6日(水)10:00-15:00 は三田キャンパスに経ゼミ委員が常駐しています。

⑤変更届を出す。(変更希望者のみ) [2/7(木)10:00~15:00]

- 1) 仮登録受け付け完了メールに記載されている URL にアクセスします。フォームを開くまでは仮登録時と同じです。
- 2) 右図のようなフォームに入力する。  
【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【仮登録ゼミ】  
【本登録ゼミ】は記入必須事項となっています。



\*学籍番号は8桁の数字意外すべてエラー表示になります。

\*本登録ゼミ以外のすべての入力データのうち、1つでも仮登録時と異なる物があれば、そのフォームは無効とします。

3)フォーム送信直後に右図のような受付完了メールが届きます。

\*タイムスタンプが、  
**Thu Feb 07 2019 15:00:00**以前の  
もののみ有効です。

\*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。



⑥経ゼミが最終倍率を発表する。【2/7(木)17:00】

Twitter 及び HP にて最終倍率を発表します。

⑦各研究会から全志願者にメールを送っていただく。【2/7(木)～2/15(金)】

課題や ES などの提出を指示する内容等を全志望者にメールを送っていただきます。

その受信が確認できなかった生徒は、経ゼミからの受付完了メールに返信する形で経ゼミまで連絡してください。

## A 日程試験・発表日に関して

【日時】 3月12日（火）  
【場所】 三田キャンパス 各教室  
【時間】 経ゼミ HP 上に、各研究会募集要項一覧を公開しています。  
そちらをご参照ください。  
【内容】 A 日程試験・合格者発表（B 日程の実施の有無および詳細発表）

## B 日程ゼミ試験志望登録方法に関して

\*A 日程と同様の登録方法であるため、「A 日程ゼミ試験志望登録方法に関して」 p.2～p.4 を参照しながら登録を進めてください。

### ①B 日程用 URL を取得する。[3/1(金)]

3月1日(金)、学内サイト keio.jp にてお知らせとして URL を通知します。

### ②情報を入力する。[3/13(水)10:00～3/14(木)15:00]

- 1) keio.jp にて配布された URL にアクセスし、学内アドレスでログインする。
- 2) フォームが開けるので、それぞれの項目を入力します。【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【A 日程志望ゼミ】は記入必須となっています。
- 3) フォーム送信後に仮登録完了を知らせるメールがログインしたアドレスに届きます。

\*タイムスタンプが Thu Mar 14 2019 15:00:00 以前のもののみが有効です。

\*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。

\*変更届のフォーム URL は登録完了メールに記載されています。

③経ゼミが倍率を発表する。[3/14(木)17:00]

HP 及び Twitter にて倍率を発表します。

\*トラブル対応のため、3月14日(木)10:00~15:00 は三田キャンパスに経ゼミ委員が常駐しています。

④変更届を出す。(希望者のみ) [3/15(金)10:00~3/15(金)15:00]

- 1) 仮登録受付完了メールに記載されている URL にアクセスします。  
フォームを開くまでは仮登録時と同じです。
- 2) フォームを入力する。【学部】【クラス】【学籍番号】【名前】【仮登録ゼミ】【本登録ゼミ】は記入必須事項となっています。
- 3) フォーム送信直後に受付完了メールが届きます。

\*タイムスタンプが **Fri Mar 15 2019 15:00:00** 以前のもののみが有効です。

\*メールが届かない場合は不具合が生じているため、一時間以内に届かない場合は経ゼミのアドレスまで連絡してください。

⑤経ゼミが最終倍率を発表する。[3/15(金)17:00]

HP 及び Twitter にて最終倍率を発表します。

⑥各研究会から全志願者にメールを送っていただく。[3/16(土)~3/20(水)]

課題や ES などの提出を指示する内容等を全志望者にメールを送っていただきます。その受信が確認できなかった生徒は、経ゼミからの受付完了メールに返信する形で経ゼミまで連絡してください。

## B 日程試験・発表日に関して

【日時】3月25日～27日 \*基本的には3月26日に試験を行ないます。

【場所】三田キャンパス 各教室

【時間】経ゼミ HP 上に、研究会募集概要一覧を公開しています。  
そちらをご参照ください。

【内容】B 日程試験・合格者発表 (C 日程の実施の有無および詳細発表)

## C 日程試験に関して

各研究会が B 日程を終えた段階で追加募集を希望する場合、C 日程募集を行なっています。C 日程募集については、経済学部ゼミナール委員会とは関係せず、各研究会が独自に行なうことになっています。そのため、本登録・一斉試験日はありません。

C 日程募集への応募を検討する学生は、B 日程終了後、各自で C 日程試験を行なうゼミと直接連絡を取ってください。

## 新規ゼミ・募集再開ゼミ紹介

### ●新規募集開始ゼミ

石井太研究会	.....p.9-10
伊藤亜聖研究会（4月入学者受入れ開始）	....p.11-12
片山翔太研究会	.....p.13
福原正大研究会（4月入学者受入れ開始）	....p.14
和田龍磨研究会（4月入学者受入れ開始）	....p.15-16

### ●募集再開ゼミ

大沼あゆみ研究会	.....p.17
難波ちづる研究会	.....p.18

※以下のゼミは今年度募集停止となります。

坂井豊貴研究会、坂本達哉研究会、津谷典子研究会、土居丈朗研究会、三嶋恒平研究会

# 石井太研究会

## — (人口論) —

### 1. 研究分野

近年、少子高齢化、人口減少、地方消滅、人生百年時代等の言葉をよく耳にするが、これらは全て人口問題である。人口問題は、人口減少や高齢化が、働き手不足や外国人材受入れ議論の惹起、社会保障給付・負担増をもたらす等、多様な社会問題に直結している。

ところが、人口問題を論じようとしつつも、今一つ明快さを欠く議論を目にすることがある。それは、人口学に基づく議論を行っていないのがその一因である。人口学とは人口を研究する科学であるが、人口変数や変数間の相互依存関係の数学的・統計学的分析を中心とする「形式人口学 (方法論)」という領域をコアとしつつ、経済学・社会学等様々な背景から、人口変数と外部との関係分析を中心とする「実体人口学 (人口理論)」という領域を併せ持つ学際的な科学であり、人口問題の議論には人口学に基づくアプローチが欠かせない。

また、人口学はデータの質や指標の量的評価を重視するのも特徴である。私は公的年金財政検証や将来人口推計等、政策立案の現場での数量的議論や科学的エビデンス提供に直接携わった経験があり、本研究会ではこのような真の実学としての人口学も学べるようにしたい。

このような観点に立ち、本研究会では、人口学の英文文献の輪読等に加え、統計分析等に関し、現在世界的に使われ汎用性の高い R の利用法を指導し、様々なデータの集計・解析に関する実用的なスキルを習得する。さらに学生諸君の関心に応じて、より専門的な文献や高度な分析手法に進

むとともに、卒論の作成を行う。私の専門分野は死亡分析・数理人口学等であるが、人口学的な研究法に基づくものであれば、出生・移動・労働・家族・世帯等これ以外の人口に関するテーマを選ぶことも可能である。

### 2. 学生への要望

人口学では方法論がそのコアとなることから基礎的な数学・統計学の知識があること、R による実習を行うため PC を有しその扱いにある程度慣れていること、英文文献の輪読を行うことから一定の英語力があることが望ましい。また、研究内容の効果的な報告、学生同士の積極的な議論・交流も重視したいので、プレゼンテーション能力や自主的な研究会運営に関心のある学生も歓迎したい。

しかしながら、最も重要なのは、人口学に対する関心の強さ、研究に地道に熱心に取り組む姿勢、そして積極性である。人口学を学ぶには、細かいデータの丁寧な取扱い、生命表など人口学特有の方法論の習得、実体人口学分析に必要な幅広い分野の論文の読解など、忍耐強く努力を続けることが不可欠である。本研究会では、このような人口学という質実剛健とした研究分野に関心を持ち、本研究会の新たな歴史を私と一緒に切り拓いていってくれる熱意を持った学生諸君が集まって下さることを期待している。

### 3. 選考について

選考について①募集人数②選考内容③他学部入ゼミ、PEARL 生受入れの可否④選考基準の紹介をお願いいたします。

#### 1 募集人数

10名程度

#### 2 選考内容

レポート(人口学で関心のあるテーマ、研究してみたいテーマについて)、  
筆記試験(初等解析・線形代数・統計学、英文読解)、  
成績表、  
教員面接

#### 3 他学部入ゼミ： 不可

PEARL 生受入れの可否： 不可

#### 4 選考基準

事前提出するレポートに基づいて行う面接、  
筆記試験と成績から総合的に判断する。

## Asei ITO Seminar

### —The Chinese and Asian Economies—

#### 1. Research Fields

Currently, China is the second largest economy in terms of Gross Domestic Product (GDP), continuing to maintain an approximately 6 percent annual GDP growth rate in the late 2010s. Consequently, China not only is a population giant or a production base but also has successfully incubated innovative companies like Huawei, Tencent, and Alibaba. The government's ambitious policy initiative targets even a much higher profile on the global stage. The recently-proposed Belt and Road Initiative is often regarded as a plan to construct a "China-Centric World." Simultaneously, domestic environment problems, inequality issues, and financial instability question the sustainability of China's growth.

What factors have contributed to China's remarkable growth since the 1980s? How have Asian economies interacted with China's rapid industrialization? Why has China succeeded as an innovative economy? What kind of potential risks has China had to deal with? What types of China-related phenomenon and effects are observed in other economies? In order to seriously examine these questions, both the period of reform and opening from the 1980s to the 2000s and the era of the new administration under Xi Jinping since 2012 will be two of the main topics of this seminar.

#### 2. To Students

An excellent book, *The Chinese Economy: Adaptation and Growth (Second Edition)* by Barry Naughton is the core textbook for this seminar, covering a wide range of topics of historical issues to China's influence on the world economy. In the first semester, each participant will be assigned to one or two chapters, to summarize and will be expected to prepare several questions based on the intensive reading of the chapter(s) and other related materials. The aim of each presentation is to enhance independent knowledge and critical thinking. Other participants are expected to read the assigned papers and actively participate in discussions. Each participant is required to submit a term paper, which independently develops one's interest related to the Chinese economy.

In addition to individual work, participants are required to contribute to the group work with other seminar participants and write a group report. This group work aims to develop social ability and collaboration skills. Late submission of the final term paper and group paper will be rejected or seriously downgraded. The lecturer recommends taking other related courses such as Development Economics, International Economics, and Econometrics.

### **3. Admission policy**

Our seminar accepts both PEARL students (attending from Autumn semester) and A/B course students of Department of Economics (attending from Spring semester) in this academic year. The fourth-grade students in A/B course also can be candidates of a member. However, such students have to complete a junior paper (Sotsuron) within two semesters.

#### Grading Policy:

Individual Presentation 30%

Group Work Report 20%

Participation 20%

Independent Term Paper 30%

## 片山翔太研究会

—統計科学，大規模データ解析，機械学習—

### 1. 研究分野

経済市場の動向調査やマーケティングなどを行う上で、いまや統計科学は欠かせないツールになってきています。本研究会では、統計科学自体について深く掘り下げていきます。特に、統計科学における「理論」と「応用」について研究を行います。「理論」というのは例えば、ある統計手法の数理的な性質を調べたり、手法間の関連性を明確にしたりすることを差します。一方で「応用」では、興味のあるデータに対して適切な分析手法を新たに構築したり、複数の分析手法を組み合わせより良い解析を目指したりします。

研究対象は特に限定しません。回帰分析/統計的推測理論/スパース推定/グラフィカルモデリング（理論）や、株価データ解析/商品推薦/広告効果の予測/自然言語処理による経済分析（応用）など、興味のある分野から自由にチャレンジできます。私も専門分野以外については少し疎いですが、その場合は一緒に勉強していきましょう。

具体的には、統計科学に必須の線形代数学に関するテキストの輪読や、統計手法の実践的な（RやPythonを用いた）勉強を進めます。上に挙げたように、統計科学の研究対象は多岐に渡ります。そのため追加で、学生さんの興味に合わせたテキストや論文を、複数人でのディスカッションを交えながら読み込んでいきます。なお、用いるテキストや論文は全て英語のものを予定しています。

### 2. 学生への要望

どちらに重きを置くかはお任せしますが、上に挙げた「理論」と「応用」の両方に興味を持つ

て来て貰えればと思います。どちらか一辺倒にならず、バランス良く学習していきましょう。本研究会では考えることを特に重視します。研究を進めるためには、対象についての深い理解が必要不可欠です。また、ディスカッションも重要視します。自分の考えを相手に伝え、そして相手の意見を聞き入れながら研究を進めていきます。そのため、以上の2点に苦手意識がないことを求めます。ただし、これから学んで行けば良いので、不得意でも構いません。

### 3. 選考について

#### 1 募集人数

5名程度

#### 2 選考内容

面接を行います。本研究会でやりたいことを私にプレゼンしてください。何を研究対象にしたいのか、どの部分が疑問で解明したいのか、などを事前に考えてきてください。理論と応用のどちらでも構いませんし、入ゼミ後に興味が変わっても全く構いません。

#### 3 他学部入ゼミ：可

PEARL生受入れの可否：可

ただし、全体的なゼミは日本語で行います。個別対応は英語で可能です。

#### 4 選考基準

面接と成績表によって総合的に判断します。

# Fukuhara Masahiro Seminar

## — People Analytics and Fintech—

### 1. Field of Study

In Fukuhara Research Seminar, we study 3 topics: People Analytics, Econometrics, and Fintech.

People Analytics and Fintech both use emerging technologies, such as blockchain and artificial intelligence, as solutions for improved efficiency and creativity. They are also growing topics amongst today's companies and organizations.

This seminar values discussion-based sessions to come up with answers to questions such as: "How can we manage workers from different countries to achieve maximum profit?" and "How can companies provide global financial services with the use of fintech?" To help support our argument and to understand issues further, we also study econometrics by using the software, *Eviews*. We study many more topics in an output-oriented style such as case discussions, presentations, and reports.

### 2. Expectation for Students

We welcome a student who strives to or is:

- A self-starter
- A challenger with an academic curiosity and a drive for growth
- Accepting and open to new ideas and people
- Contributes to our seminar community with all members' growths in mind
- An active member of society and has a mission for its betterment

### 3. Admission

#### ① Quota

10 people

#### ② Exam

##### ~ Report & Group Discussion ~

Students will be provided a case study and data set to write a report and prepare for a group discussion with other applicants as well as our seminar members. The case study and data set will be provided shortly after submitting their application.

##### ~ Individual Interview ~

Students will also be interviewed by the seminar members. We will ask general questions such as your interests and hobbies to get to know each student and their goals and motivations.

#### ③ Accepting all students (including PEARL students and students from other departments)

#### ④ Criteria

Whether students can:

- express their opinions and ideas in a logical and collaborative way
- analyze the issues quantitatively and qualitatively to make decisions
- apply statistical and microeconomic concepts (e.g. game theory) in solving issues

## 和田龍磨研究会

### Tatsuma Wada Seminar

—国際マクロ経済、計量経済 International Macroeconomics, Econometrics—

#### 1. 研究分野

担当者の専攻分野は国際マクロ経済学、計量経済学であり、研究会でも所属学生はこの分野を主に学んでいくこととなります。経常収支の変動、国際景気循環、為替レートなどのテーマが研究内容になりますが、サブゼミなどでのテキストの輪読を通して理論的な理解を固めるとともに、計量分析の方法を理解した上で分析ツールを自由自在に使えるようになることを目指します。これらのことは、日吉・三田での授業を受けるだけで身につけることは困難ですし、自らの考えを発表したり、ほかの学生と議論をする機会は研究会以外ではあまりないと思います。

4年生の卒業論文を提出することになりますが、そのトピックは、必ずしも研究会で学んだ内容でなくても構いません。まだ学生がいませんので、具体的な活動については決まっていない部分が多いですが、三田祭論文発表、ゼミ合宿などを予定しています。2019年度春学期は計量経済学のテキストを中心とした演習を予定しています。

本研究会は PEARL 学生のために作られましたが、PEARL 以外でも、英語を使って経済学を学びたい、英語で議論したい、などといった学生を歓迎します。

My areas of expertise are international macroeconomics and econometrics. Hence, students in my seminar will be studying topics related to those two fields. More specifically, we will be studying

current account dynamics, international business cycles, and exchange rate dynamics. I expect the students in my seminar to learn basic economic theory and analytical skills by holding sub-seminar sessions in addition to main-seminar sessions. This seminar serves the purpose of a supplement to regular courses in economics: It is essential for you to give presentations on textbook chapters and discuss economic issues with your classmates in order to understand economics deeply.

While 4<sup>th</sup> year students are required to write their theses, the topic of your thesis does not have to be directly related to what you have learned in the seminar. Since this seminar does not have any student yet, there is no clear plan for this seminar's activities. For the time being, I would like to have a seminar camp (perhaps in August or September); and I would like the students to write a paper for Mita-sai in November. For the Spring-2019 semester, we will be reading and discussing an advanced textbook on econometrics.

Originally, this seminar was created exclusively for PEARL students. However, starting in 2019, I will welcome both PEARL and non-PEARL students who want to study economics in English.

## 2. 学生への要望

マクロ、ミクロ、統計学の基礎が身につけていることが望ましいですが、これらの準備に不安があってもこれから学んでいきたいという意欲があることが必要です。また、国際経済や経済全般について、漠然としたものでもいいので関心があることが重要です。

Ideally, I would like to have many students who have a solid understanding of macroeconomics, microeconomics, and statistics. However, I would be glad to have students who are willing to learn economics, especially the empirical side on economics.

## 3. 選考について

### 1 募集人数

A 日程：15 人程度

B 日程：若干名

A selection schedule: About 15 students will be admitted.

B selection schedule: A few students will be admitted.

### 2 選考内容

A 日程：面接。成績表を持参。

B 日程：筆記試験（マクロ、ミクロ、統計学より出題）と面接。成績表を持参。

For A selection schedule: An interview will be given. Please bring your academic transcript.

For B selection schedule: A written exam (questions are from: macroeconomics, microeconomics, and statistics) and an interview will be given. Please bring your academic transcript.

### 3 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受入れの可否：可

PEARL students, non-PEARL economics students, and students from other faculty are welcome to apply.

### 4 選考基準

基礎学力と関心、意欲を総合的に判断して決定します。

I will select students based on: their basic understanding of economics, interests in economics, and willingness to study(hard).

# 大沼あゆみ研究会

## —環境経済学—

### 1. 研究分野

当研究会では、環境経済学についての研究を行います。現在、地球温暖化、生物多様性減少、廃棄物処理などを始め、さまざまな環境問題が存在していますが、その背景にはその主要要因として多くの経済活動があることがほとんどなのです。

環境経済学は、どのような経済活動が環境問題をもたらしているのか、そしてどのような経済政策を行うことで環境問題が緩和・解決できるのかを探求するものです。それぞれの環境問題に特徴的な経済学的アプローチもあれば、多くの環境問題に共通するアプローチもあります。

本研究会では、三年時は、主に自然保全（生物多様性保全）の問題についての研究を行い、環境経済学の考え方を学ぶとともに、現実の自然劣化について幅広く知識（現状・対策・国際的取組・関連ビジネスなど）を吸収してもらいます。夏合宿では国立公園を訪問するなど、さまざまな現場を見ることを計画しています。一方、四年時に執筆する各自の卒論は広く環境問題の中からテーマを選び研究を進めてもらいます。

ちなみに、私の研究のテーマは、「持続可能な発展」と「生物多様性保全」についてです。生物多様性の持続可能な保全システムや生物多様性を経済に活用したさまざまな事例も研究しています。

### 2. 学生への要望

環境問題は純粋な気持ちから心を痛める人が多いものです。しかし、環境保全に対して行われる提言の中には、こうした気持ちを反映してか若干情緒的な提言も少なくありません。そして、そうした提言は、持続的なシステムづくりという観点からは評価できないものも多いのです。持続可能な保全システムの設計には経済学的な論理的考えは欠かせません。一方で、環境問題のほとんどは、適切な保全システムがいまだ完成途上にあります。経済学への需要は高く、学生諸君にもさまざまな観点から提言を行ってくださることを期待しています。

### 3. 選考について

選考について①募集人数②選考内容③他学部入ゼミ、PERAL生受け入れの可否④選考基準の紹介をお願い致します。

①募集人数 A日程とB日程を合計して15名程度。

②選考内容 課題レポートと面接および成績表（B日程は面接・成績表）

③他学部入ゼミ:受け入れる

PERL生受け入れ:ゼミを日本語で行うことを予め承知するなら可。

④選考基準

レポートと面接の総合評価。自然や環境問題に対する関心など幅広くお話してもらいます。これまで環境問題に実際に取り組んだことがあったり、自然や野生生物が好きな学生諸君を歓迎します。

## 難波ちづる研究会

### —植民地史・帝国史—

#### 1. 研究分野

かつて、アジア・アフリカの大部分は、一握りの列強諸国による植民地支配下におかれていた。それらのほとんどが独立した現在も、過去の植民地支配の影響は、経済・政治・社会・文化など多くの側面においてみられる。現代世界のシステムを大きく規定し、いまだに過ぎ去らない過去として、ことあるごとにたちあられる植民地支配・帝国支配がいかなるものであったのかを探究することが本研究会の目的である。扱う具体的な国やテーマは学生の興味関心を考慮しながら決定する。どのような人々が植民地支配に携わり、様々なアクター間でどのような利害関係がみられたのか、そしてどのような支配を試み、現地社会にどのような影響を与えたのか。現地社会の人々はどのようなリアクションを行ったのか。経済・政治といった、従来の帝国史研究が主な対象としてきた分野だけでなく、科学、環境、文化、家族、といった様々な側面を視野にいれ、共同研究を進め、三田祭での研究発表を行う。その後は、それまでの共同研究でえた知見を土台にして、各自がそれぞれのテーマを選択し、卒業論文を執筆する。

#### 2. 学生への要望

学術的な好奇心と問題意識をもち、それを少しでも明らかにする労力を惜しまず、自分で思考し、それを論文や口頭発表によってアウトプットしていくことは、今後、あらゆるところで必要不可欠なスキルとなります。過去の歴史をすこしずつひもといていくことは、地道な作業であると同時に、想像力を必要とする刺激的な作業です。高

校時代の日本史・世界史が好きではなくてもかまいませんが、多くの本や資料を読むことになるので、そうした作業をいとわない学生を求めます。

#### 3. 選考について

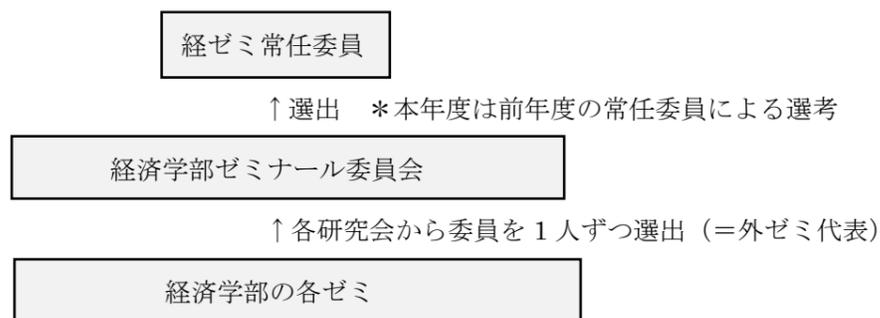
- ①募集人数：10名程度
- ②選考内容：課題レポートと面接
- ③他学部入可、PEARL生不可
- ④選考基準：問題意識をもち、学術的好奇心が強く、きちんと資料にあたって問題を解決できているか。

## 経済学部ゼミナール委員会とは

経済学部ゼミナール委員会(略称:経ゼミ)は、慶應義塾大学経済学部設置されている各研究会より1名ずつ選任されたゼミ代表を委員として構成される委員会です。慶應義塾大学の「上部団体・福利厚生等団体」に所属する団体となります。経済学部のゼミナールに所属している学生は1学年あたり約1000人弱います。この多くの人数を抱えた経済学部の各研究会間の親睦を図り、諸問題を解決し、入ゼミや三田祭論文発表などの各種企画行事を開催しています。そして経済学部から慶應義塾の興隆に寄与することをその目的としています。入ゼミは単位に関わるものでもあり、学事センターが管理していると思われがちですが、説明会や試験も学生の代表である経ゼミが学事や教授と協力の下、運営管理している点が特徴です。

### ☑経済学部ゼミナール委員会の構成

- ・会長：駒形哲哉 教授
- ・構成員：経済学部各研究会からの代表者
- ・常任委員：構成員の中から選出された16名

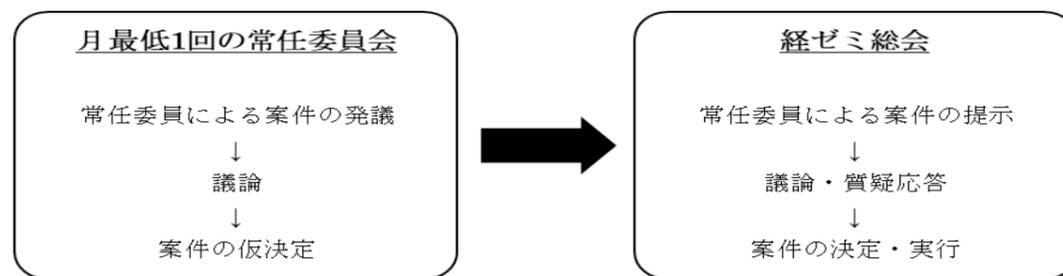


4月の最初のゼミで外ゼミ代表になった人で、経ゼミの常任委員になりたい人は立候補してください。応募者が多かった場合は面接による選考を行います。

### ☑経済学部ゼミナール委員会 目的・意義

- ・経済学部として慶應義塾大学の興隆に寄与する。
- ・経済学部の研究会相互間の親睦を図る。
- ・必要に応じ、全構成員による総会、あるいは常任委員による常任委員会を開く。

#### ☑経ゼミ総会と常任委員会の現在の関係



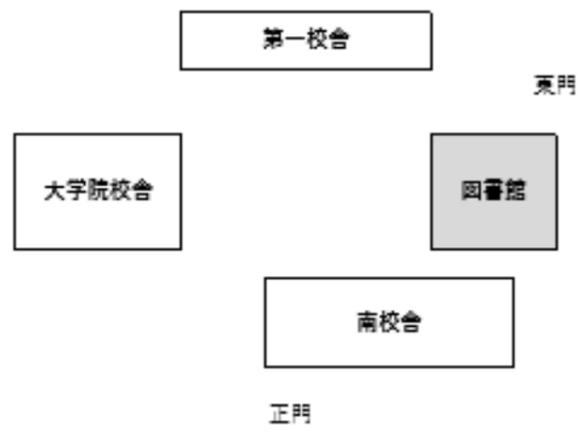
#### ☑経ゼミ主催イベントカレンダー

- 4 月 新年度経ゼミ常任選挙
- 5 月 春期ソフトボール大会開催
- 6 月 全塾ソフトボール大会協力
- 7 月 第1回入ゼミ説明会
- 8 月 オープンキャンパス経済学部運営
- 9 月 秋季バレーボール大会
- 10 月 第2回入ゼミ説明会
- 11 月 三田祭論文発表、三田祭講演会
- 12 月 三田祭論文優秀者表彰
- 1 月 第3回入ゼミ説明会
- 2 月 入ゼミ A 日程登録
- 3 月 入ゼミ A 日程試験・発表、B 日程登録、試験

#### ☑2017 年度 経済学部ゼミナール委員会 常任委員

- 委員長: 小林北斗(尾崎裕之研究会)
- 副委員長: 関川亮(土居丈朗研究会)
- 財務: 若林紘子(井深陽子研究会)
- 全塾: 小竹康太(田中辰雄研究会)、久永悠太(穂刈亨研究会)
- 企画: 田島友貴(河端瑞貴研究会)、谷本平(津曲正俊研究会)
- 入ゼミ: 石本昭君(坂井豊貴研究会)、大畑滉貴(長倉大輔研究会)、  
澤田剛志(藤原グレーヴァ香子研究会)、関川なつ美(竹森俊平研究会)、  
松村美希(山田篤裕研究会)
- 三田祭: 笠原拓海(寺井公子研究会)、田代陽太郎(大垣昌夫研究会)、矢野百合子(川俣雅弘研究会)
- IT・広報: 湯谷紘成(大西広研究会)

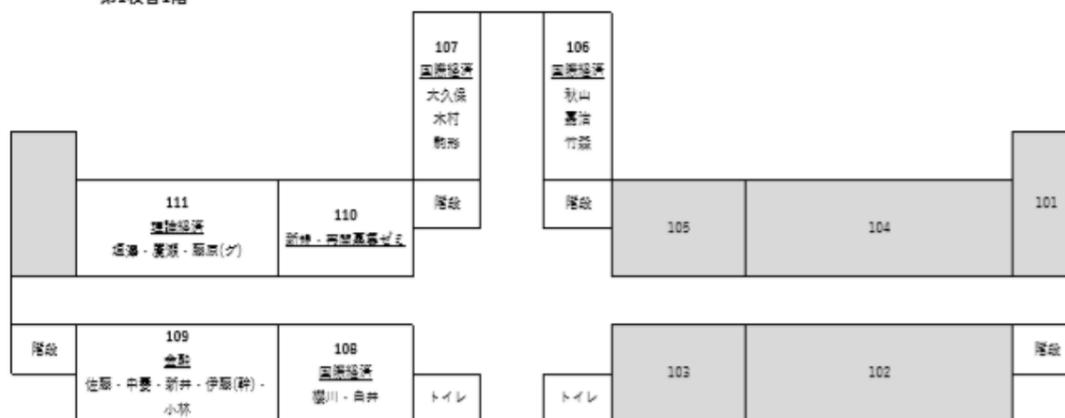
## ゼミ説明会 会場全体図



### 大学院校舎（5F）

354 <u>理論経済</u> 尾崎		355-A	355-B		356 <u>理論経済</u> 藤原（一）
353-D					357-A <u>理論経済</u> 栗野
353-C		階段			357-B <u>理論経済</u> 大西
353-B		トイレ			357-C
353-A		EV			階段
352		351-B	351-A		358

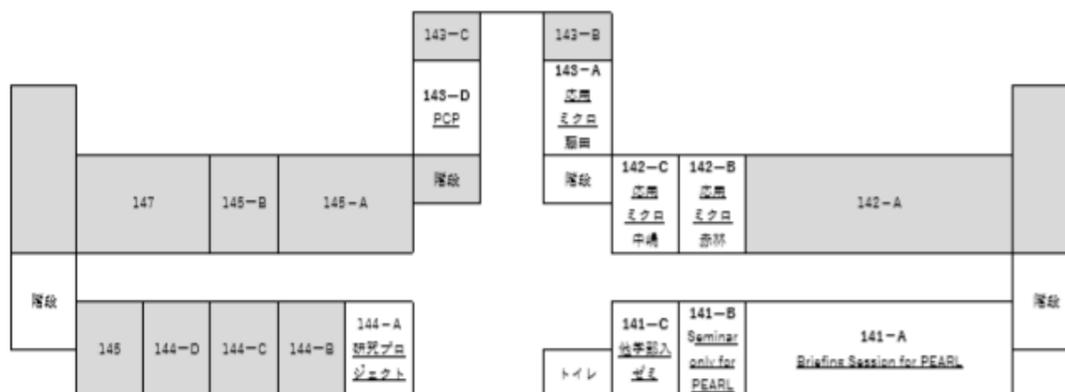
第1校舎1階



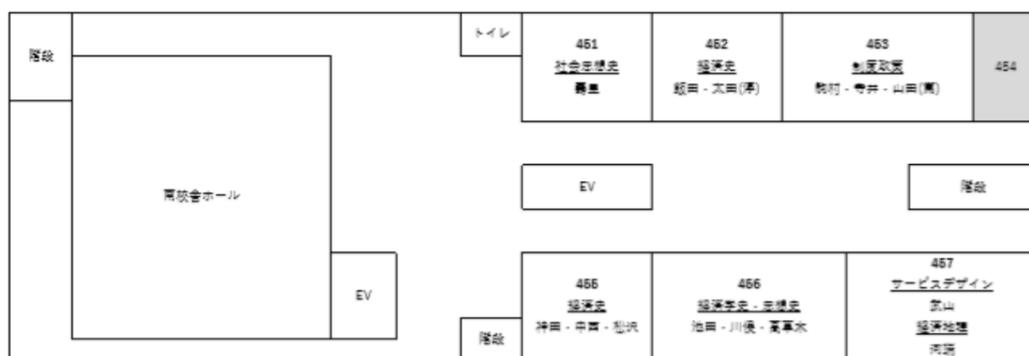
第1校舎3階



第1校舎4階



南校舎(5F)



南校舎(6F)

